

【実践報告】

公立小・中学校教員採用試験に向けた取組の実際

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 佐伯 育郎
初等教育学科 准教授 今崎 浩

1 平成25年度・教員採用試験対策チャレンジセミナーの実際

本学では、学生からの要望に応える形で教員採用試験対策チャレンジセミナー（以下、「セミナー」と呼ぶ。）を行っている。正規の授業ではなく、自由参加型のセミナーであり、あくまでも学生の主体的な学びを支援するものである。

大学によっては、学外の業者に委託する形で教員採用試験対策講座を行っている例¹⁾、授業料とは別に講座受講費を徴収している例²⁾、集中講義として単位化している例³⁾もある。教育支援センターの専門スタッフが、教員採用試験対策も行っている大学もある⁴⁾。

本学のセミナーは、学生主体で運営を行っている点、授業外・長期休業中を利用して大学教員が無償で支援している点、卒業生が自主的に参加する点に特長がある。平成25年度は、これまで以上に学生の主体的な学びを、初等教育学科教員を中心に大学教員全体でバックアップする体制を取った。

1.1 春期休業中セミナー

3年次の後期試験が終わり、春期休業に入ると教員採用試験に向けた取組が本格化する。表1・2のように、春期休業中にもセミナーを行う。3年生のセミナー代表が教員に依頼し、時間割調整を行い、セミナーの時間割を組む。このセミナー以前も、教員採用試験に向けての取組は既に開始されており、ゼミ単位や受験自治体単位などで学生による勉強会は自主的に行われている。この時点で教員採用試験に向けた学習に対して意欲的になることができている学生もいるが、セミナーを受講することで学習のポイントとペースをつかむことができ、学びに弾みがつく。他の学生の学びの様子も知ることができ、刺激にもなる。個人で学習を進めている学生もいるが、教採受験学生全体から比べると少数である。

【表1：春期休業中セミナー一覧】

内容	担当	詳細
体育	川西	学習指導要領のポイント
音楽	新宅・善本	学習指導要領解説、声楽やピアノのポイント、個別指導
算数	今崎	指導計画作成のポイント
グループワーク	岡	グループワークに必要なポイント
道徳	村上	学習指導案作成の方法
総則	今崎	学習指導要領のポイント
教育史・特別支援・道徳	徳本	教育史や特別支援についての講義
集団討論	徳本・佐伯	集団討論の演習、ポイント
国語	橋村	学習指導要領解説、過去問などの解説

図画工作	佐伯	デッサンの実技・ポイント
自己 PR	黒木	願書の書き方や自己 PR の内容など
面接	今崎	面接のポイント
教育法規	杉山	法規に関する穴埋めの問題の演習，解説
総合的な学習の時間・特別活動	高橋	学習指導要領のポイント

【表 2：春期休業中セミナー時間割】

	2月18日（月）	2月20日（水）	2月21日（木）	2月22日（金）	2月25日（月）	2月26日（火）	3月1日（金）
1 コマ	スタート会	グループワーク 岡	総則 指導要領解説 今崎	グループワーク 岡	音楽 弾き歌い② 新宅	集団討論③④ 徳本 佐伯	教育法規 テスト 杉山
2 コマ	体育 指導要領解説 川西	道徳指導案作成 村上	音楽 声楽（45分） 新宅	集団討論① 徳本・佐伯	国語 指導要領解説 橋村	自己 PR・ 願書の書き方 黒木	道徳 指導案作成 村上
3 コマ	音楽 指導要領解説 新宅	音楽 声楽（45分） 新宅	教育史・ 特別支援・ 道徳 徳本	総合・特別活動 総合指導案作成 高橋	図工 デッサン 佐伯	面接について 今崎	音楽 ピアノ④ 新宅
4 コマ	算数 指導計画の作成 今崎	音楽 弾き歌い① 新宅	教育史・ 特別支援・ 道徳 徳本	集団討論② 徳本・佐伯	音楽 ピアノ③ 新宅	特別活動 高橋	反省会

※この他、音楽・ピアノの個人指導（善本）が行われた。

筆者が担当したセミナーの例を挙げ、参加状況等について述べる。図画工作専門の筆者が担当した2月25日の図工・デッサンのセミナー（春期）では38人の出席があり、実技問題の演習とポイント解説を行った。

徳本教授と筆者が担当した集団討論セミナーは、4回実施した。1・2回目は47人、3・4回目は16人の参加であった。1グループにつき6～7人で討論を行った。教員が設定した討論のテーマから任意に選択させ、討論をする学生とそれを評価する学生とに分かれて実施し、その後交代した。討論する側、評価する側の両方を体験することによって、学生自身が評価の観点を発見することができた。3回目は、示範するために徳本教授と筆者が学生の中に入り、討論を行った。



【写真 1・2：春期休業中セミナーでの図工・デッサン】



【写真 3・4：春期休業中セミナーでの集団討論】

1.2 前期セミナー

4 年次前期も授業や卒業研究と並行してセミナーが行われる。セミナー代表が事前調査を行い、授業・卒業研究以外の空きコマでセミナーを行えるよう時間割を組む。空きコマを有効に使えるよう、卒業研究の開講を複数のゼミで重複させるように調整する。表 3・4 以外では、国語系教員（岡・黒木・橋村・森・森下）やゼミ担当教員による小論文・自己 PR 文の指導等、時間割にない支援も随時行われている。

筆者が担当したセミナーの例を挙げ、参加状況について述べる。筆者が担当した図画工作セミナー（前期）は、4 月 22 日から 7 月 15 日までの 11 回実施した。今年度は例年と比べると出席率も高く、平均 22.5 人（事前申込 33 人、最大 42 人、最小 11 人）であった。図画工作セミナーは、筆者が本学へ着任した平成 12 年度（2000 年度）から継続して実施しているものである。平成 12 年度の 4 年生である初教 17 期生の場合、平均 6.2 人（事前申込 21 人、最大 9 人、最小 3 人）であり、受講数も増えてきている。その他、デッサンの個別指導（広島県）、実技問題の個別指導（鳥取県）等も行った。デッサンの個別指導（広島県）は、セミナー以外で学生が自主的にデッサン練習したものを筆者が添削し、コメントを付けて返却する方法を取っているものである。実技問題の個別指導（鳥取県）は、5 月後半から 7 月にかけて毎週 1 コマを 9 回分実施した。参加者は 2 人であった。試験当日の準備物から予想した練習問題を行い、完成した作品を鑑賞しながら振り返りを行った。

徳本教授と筆者が担当した集団討論セミナーは、4 月 17 日から 7 月 16 日までの 13 回実施した。前年度までは、教員から評価の観点や討論のポイントを学生に示していた。より主体的な学びとするため、今年度は評価の観点や討論のポイントを学生自身に考えさせるようにした。集団討論の試験を課す自治体が以前より減ったこともあり、10 人程度の参加であったが、毎週のように熱心に参加した学生も見られた。

【表 3：前期セミナー一覧】

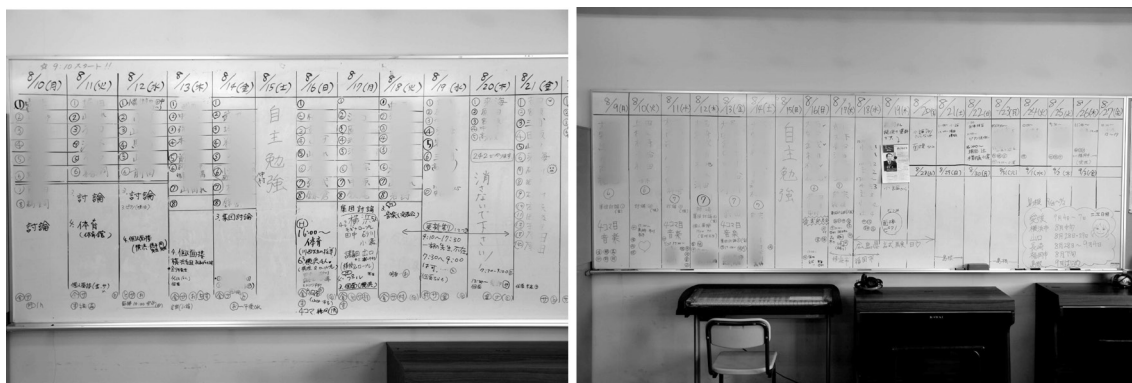
内容	担当	詳細
グループワーク	岡	自作問題の演習、アドバイス
図画工作	佐伯	図工の練習問題、デッサンの実技・ポイント
場面指導	村上	場面指導の演習・ポイント
体育実技	川西	実技、ポイント
ピアノ	新宅	弾き方のポイント
理科演習	高橋	練習問題、解説
集団討論	徳本・佐伯	集団討論の実技、ポイント

【表4：前期セミナー（下線）時間割】

	月	火	水	木	金
1 コマ		集団討論 佐伯・徳本			
2 コマ		場面指導 村上			
3 コマ					
4 コマ	グループワーク 岡	体育実技 川西		ピアノ 新宅	
5 コマ	図工・デッサン 佐伯			理科演習 高橋	

1.3 二次試験対策セミナー

二次試験対策セミナーが開始される以前は、各県の勉強会等で模擬授業や面接等の練習をしている。夏期休業に入ると、二次試験対策セミナーを本格的に開始する。例年、一次試験の結果が出ないうちから、二次対策を開始している。二次対策の内容は、模擬授業、面接練習、音楽実技、体育実技等である。事前にセミナー代表が教員のところへ出向き、模擬授業と面接指導の担当時間を決める。セミナー代表が表を作成し、希望する時間帯に学生が各自名前を記入する。1コマにつき4人以上の学生が参加する。表5のように、複数の教室を使用して模擬授業と面接指導を同時展開している。この方法は、平成24年度から取っているものである。会場は、試験会場である小学校教室に近い4号館を使用している。平成23年度までは、262教室を会場として、複数の教員で二次対策・模擬授業や集団討論等を行っていた。写真5・6のように、教室後方のホワイトボードに学生が名前を書き込み、模擬授業等を実施していた。



【写真5・6：平成21・22年度・二次対策の予定表（262教室のホワイトボード）】

二次対策では、卒業生も参加し、ともに模擬授業等を行う。現役合格できなかった卒業生は4年生とともに学ぶために、既に採用されている卒業生は後輩の指導のために自主的に本学へ訪れる。4年生にとっては、小学校現場での実体験や試験会場の様子等も卒業生から教えてもらえるので、非常に参考になる。卒業生にとっては、4年生が取り組む姿を見ることで初心に返ることができる。4年生と卒業生、教員が互いに刺激し合い、学びを深めている。4コマ後にも、面接指導や模擬授業の練習等は行われている。例年、少数ではあるが、他学科の学生もセミナーに参加する。今年度は、グローバルコミュニケーション学科、人間栄養学科の学生が面接を中心として二次対策に参加した。他学科学生の参加も、お互いに刺激となっている。表5は、広島県対策を主としたものである。18日以降は、

島根県・鳥取県対策を中心として9月中旬にかけてセミナーは続いていった。

今年度の二次対策・模擬授業において筆者が指導したのは延べ62人の学生であった。7月24日の広島県対策を皮切りに、8月23日の島根県対策まで二次対策・模擬授業が続いた。

筆者は、5月1日に実施した学生代表者との模擬面接も含めると、7月15日から9月12日まで延べ60人の二次対策・面接指導を行った。9月13日から始まった幼児教育コースの学生に対する面接指導も含めると、筆者が担当した学生は11月27日までで延べ88人となった。筆者の場合、表5以外の面接指導では1人の学生につき60分以上の時間をかけている。筆者に限らず、教員は授業外での学生に対する指導・支援に多くの時間を割いている。

【表5：二次試験対策セミナー一覧】

	8月6日（火）				8月8日（木）				8月9日（金）				8月12日（月）				8月13日（火）			
	面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬	
1	佐伯	今崎	牧	徳本	川西	川西	今崎	徳本	高橋	今崎	岡	橋村	今崎	川西	佐伯					
2	佐伯	今崎	牧	杉山	川西	徳本	川西	今崎	徳本	高橋	佐伯	岡	橋村	今崎	川西	佐伯				
3	田頭	川西	佐伯	今崎	牧	森	川西	徳本	森	徳本	川西	橋村	川西	佐伯	今崎	橋村	今崎	川西	佐伯	

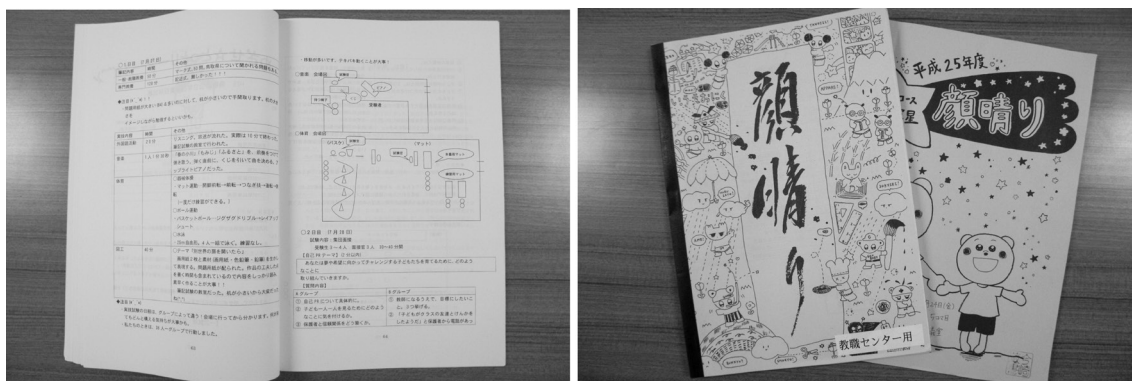
	8月14日（水）				8月15日（木）				8月16日（金）				8月17日（土）				8月18日（日）			
	面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬		面接		模擬	
1	橋村	佐伯	今崎	岡	橋村	岡	今崎	佐伯	橋村	今崎	佐伯	岡	田頭	佐伯	今崎	岡	田頭	岡	今崎	佐伯
2	橋村	佐伯	今崎	岡	橋村	岡	今崎	佐伯	橋村	今崎	佐伯	岡	田頭	佐伯	今崎	岡	田頭	岡	今崎	佐伯
3	橋村	佐伯	今崎	岡	橋村	岡	今崎	佐伯	佐伯	今崎	高橋	岡								

（佐伯）

2「顔晴り（がんばり）」の取組の実際

2.1 教員採用試験等報告書「顔晴り」

「顔晴り」とは写真7・8のような教員採用試験等報告書のことである。



【写真7・8：教員採用試験等報告書「顔晴り」】

かつては、初等教育学科の教員採用試験に向けた取組の一つとして「教採合格の秘訣」，「教採合格の秘訣・奮闘の記録」という名称で作成されていたが，初等教育学科23期生が「顔晴り」と名付け，それ以降毎年学生が主体となって作成されているものである。この名称には「結果よりも大切にする」という学生並びに教員の教員採用試験に向けた姿勢が込められている。

現在，この取組は教職センターに受け継がれ，全学的な取組となりつつある。

今年度の報告書は143頁で，その内容は春期休業中，4年前期，夏期休業に行われたセミナー，自治体ごとに行われた学習会，小学校教員採用試験，学校栄養職員採用試験，臨時的任用教諭採用試験，公務員試験，一般企業採用試験，他大学特別選考科試験と非常に幅広いものとなっている。また，各試験に向けた学習方法，採用試験の実際，後輩へのアドバイスが詳細に記述されている。さらに，卒業生からの寄稿も掲載されている。

この報告書は学年を問わず希望する学生に配付しており，次年度教員採用試験等の受験を考えている学生はもちろんのこと，1・2年生にとっても2・3年後のイメージを具体的に持つことができる貴重な資料となっている。

2.2 教員採用試験等報告会「顔晴りの会」

「顔晴りの会」とは教員採用試験等報告会のことである。

今年度は写真9のような全体会，写真10のような分科会の2部構成で行われた。この会の内容もセミナー代表が中心となって学生が主体的に計画・運営を行っている。



【写真9：「顔晴りの会」全体会の様子】



【写真10：「顔晴りの会」分科会の様子】

全体会では，小学校教員採用試験を受験した学生等の報告が行われた後，教職センター所属の教員から今年度の教員採用試験等の取組についての講評が述べられた。

また，分科会では自治体ごとのブースが設けられ，教員採用試験報告書に沿って自治体の傾向に沿った学習方法等の報告，質疑応答が熱心に行われた。

参加者は1年生から4年生と幅広く，学生の関心の高さが伺えた。

3 平成25年度実施公立小・中学校等教員採用試験の結果

前述の取組の結果，平成25年度に実施された公立小・中学校等教員採用試験の結果は表6のとおりであった。

【表 6：公立小・中学校等教員採用試験の結果（判明分）】

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		栄養教諭		計
	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	在	卒	
千葉県	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
横浜市	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
京都市	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
島根県	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
岡山県・市	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
広島県・市	22	9	1	2	0	0	0	2	0	0	36
山口県	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	6
北九州市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
長崎県	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
熊本県	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	28	19	1	2	0	0	0	3	1	0	54

(今崎)

4 成果と課題

平成25年度の4年生（30期生）は、1・2年次チューターの呼びかけにより1～2年次の早い段階から教員採用試験に対する取組を開始している学生が少なくなかった。セミナーへの取組も、例年以上に学生主体で運営することができていた。セミナー代表の学生を中心として、学び合う姿勢、高め合う雰囲気作りができていた。セミナー代表の学生は、教員に対する依頼だけでなく、事後の報告・御礼の挨拶等も怠らなかった。取組を通して、協働性・同僚性・主体性が高まっていったといえるだろう。教員も、教員採用試験対策に参加する人数が例年よりも増えた。表5のように、複数の教室を使用して模擬授業と面接指導を同時展開したことで、平成23年度以前よりも練習回数が確実に増えた。以上の取組によって、今年度の結果につながったものと考えられる。

課題としては、セミナーに参加しない学生も見受けられたことが挙げられる。これは例年と同様である。とりわけ二次対策では、一次試験が不合格になった学生も、今後のことを考えて主体的に参加してもらいたいものである。教員採用試験合格という目の前の目標のためではなく、将来子どもの前に立つために実践力を身に付けることが主眼である。これまで以上に、学生に参加を呼び掛ける必要があるだろう。

教職センターの課題としては、教員の支援体制が挙げられる。初等教育学科の教員を中心に学生を支援する体制は整ってきたが、まだまだ一部教員に頼っていることも事実である。教員採用試験対策に向けた取組を今後さらに充実させ、大学全体で学生を支援していくような体制づくりを進めていく必要があろう。

最後に、今年度複数の教室を使用して模擬授業と面接指導を同時展開することによって学生1人あたりの練習回数は増え、効率的な取組が行われたが、協力してくれた卒業生から1回の模擬授業に対する思いや事前準備が以前よりも減ってきているのではないかという指摘もあった。学生の主体的な学びを大切にしたい取組となるよう今後も改善に努めていきたい。

(佐伯・今崎)

駐

- 1) 専修大学では、エクステンションセンター事務課が主催となって学外業者の講師による「教員採用試験対策講座」を実施している。(http://www.senshu-u.ac.jp/support/extension_center/extracurricular_info/7841/007844.html 専修大学ホームページ 平成26年1月25日参照)
- 2) 広島大学が学部生・院生を対象として行っている「教員採用試験対策講座」、日本女子大学教職教育開発センターが行っている「教員採用試験対策講座」等がこれに該当する。(http://www.hucoop.jp/career/teacher/index.html 広島大学ホームページ, http://www5.jwu.ac.jp/laboratory/kyoshoku/jyohou.html 日本女子大学教職教育開発センターホームページ 平成26年1月25日参照)
- 3) 同志社女子大学では、3・4年生を対象として「教職特別演習Ⅰ・Ⅱ」を行っている。内容は、教員採用試験合格を目的とした個人面接、集団面接、集団討論、場面指導、小論文、カウンセリング、ロールプレイ、教育行政・法規等である。(http://www.dwc.doshisha.ac.jp/job_qualifications/license/teacher_training_center/research_group.html 同志社女子大学ホームページ 平成26年1月25日参照)
- 4) 岐阜女子大学の例である。岐阜女子大学教育支援センターでは、①学生生活と心を支える支援②個性発揮のための支援③学力向上のための支援④教職に関する支援を行っている。④教職に関する支援では、教員採用試験に対する特別講座や情報提供を行い、教員採用試験対策を実施している。(http://www.gijodai.jp/shien/岐阜女子大学教育支援センターホームページ 平成26年1月25日参照)

参考文献

- ・岡利道 他編『初等教育学入門』広島文教女子大学初等教育学科 2009年
- ・『顔晴り』広島文教女子大学初等教育学科 2013年